あわら市の子どもたち

令和8年度 全国学力・学習状況調査

「全国学力・学習状況調査」は、文部科学省が全国の児童生徒（小学６年生、中学３年生）を対象として行う調査です。児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図ること、また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的とし、平成１９年度より実施されています。学力を問う出題だけでなく、児童生徒の学習環境や生活環境の質問紙調査も行われています。

この度、令和８年４月に実施された調査について、本市の結果を公表します。この結果については、調査日時点でのものであること、成長過程の子どもたちの限られた教科の結果であること、また、学習状況の部分的な調査であることをご承知おきください。

本市としましては、教育活動を評価するための一つの資料として有効に活用してまいります。

また、児童生徒の学力の向上には、学校と家庭、地域の連携が不可欠です。今回の公表結果を通して、三者の連携体制をより一層強く築くための一助にしたいと考えております。みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いします。

■調査対象

小学校６年の児童及び中学校３年の生徒



■調査事項

１　教科に関する調査
- 小学校国語、算数
- 中学校国語、数学、英語（3 年ぶり、CBT※にて）

２　教科に関する調査の内容
- 知識と活用を一体的に問う問題形式で出題

３　質問紙調査
- 生活習慣や学習環境に関する質問

■教科に関するあわら市の調査結果から

全国・県平均正答率との比較（P はポイント）

１P 以上高い→◎　－１P 以上高い～１P より低い→○　－１P より低い→△

小６	国との比較	県との比較
国　語	◎	◎
算　数	◎	◎

中学英語は IRT スコア※での比較

中３	国との比較	県との比較
国　語	○	△
数　学	◎	○
英　語	○	○

※CBT は、紙ではなくタブレットで答えるテストです

※IRT スコアは、受けたテストの問題が少し違っていても、学力を同じ基準で比べられるようにしたスコアです。

【小学校　概要】

小学校の平均正答率は、昨年に引き続き、国語、算数において全国や県の平均正答率を上回っています。また、２教科ともに「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点別においても全国や県の平均正答率を上回っています。あわら市の児童は「基礎的な知識の習得や、定型的な問題を正確に解く力」が優れています。

【小学校　教科別の成果と課題】

小学校国語

「良好」な内容

○問題形式別では、記述式の正答率が、全国平均を 6.1 ポイント上回っており、自分の考えを文章にまとめる力が育っている。

○知識を問われることが多い「短答式」では、全国平均を 5.7 ポイント上回っており、知識の定着度が高い。

○文脈に即して漢字を正しく使うことできる。（漢字問題２問とも、全国平均を大きく上回っている）

「課題」となる内容

●情報を整理・分類して活用する論理的な思考プロセスにおいては、県や全国の平均水準をやや下回っている。

（対策案）文章を読む際や書く際に、「どれが結論（考え）で、どれがそれを支える証拠（理由・事例）か」を常に意識させる指導が有効である。例えば、文章の中から「理由を表す言葉（なぜなら、理由は～など）」を見つける活動や、自分の意見を書く際に必ずセットで事例を挙げる習慣付けをするなどの改善策が効果的である。

小学校算数

「良好」な内容

○２つの表から集計の誤りを見つけ、その根拠を数と言葉を用いて記述する問題では、全国平均を 10 ポイント以上、上回っており、「示された情報を活用して根拠を説明する」ことに長けている。

○一辺が 8㎝ の立方体の体積を求める式を書く問題などで良好な結果が見られる。公式を当てはめる等の基本的な知識や技能が育っている。

○問題形式別では、記述式の正答率が、全国平均を 10 ポイント以上、上回っている問題があるなど良好である。

「課題」となる内容

●立方体の体積を求める式を書く問題は良好であるが、問題１（３）の体積の意味を理解しているかをみる問題は全国平均を下回る。

●単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解する問題や、割合の図を選ぶ問題で全国平均を下回る。

（対策案）「課題」となる問題は共に意味理解が不足している。公式を当てはめたり、解き方をパターン化したりするのではなく、しっかりと意味を理解できるまで到達させたい。そのためには意味理解ができているかどうかを評価できる場面を作ることが効果的である。

【中学校　概要】

中学校の平均正答率は、国語、数学において全国の平均正答率を上回り、英語は若干下回っています。３教科共通で「概要の把握」や「意見のまとめ」において全国平均を上回る傾向にありますが、「具体的な情報の抽出」や「根拠を伴う説明（記述）」に課題が見られます。

【中学校　教科別の成果と課題】

中学校国語

「良好」な内容

○問題形式別では、記述式の正答率が全国平均を上回っている　特に互いの立場を尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる問題で、正答率が全国平均を 7.4 ポイント上回っている。

「課題」となる内容

●文脈に即して正しく漢字を書き、語句を使う問題の正答率が全国平均を 5 ポイント以上下回っている。

●目的や場面に応じて集めた材料を整理し、内容を検討する問題で、正答率が全国平均を 5 ポイント以上、下回っている。

（対策案）「漠然と」書くのではなく、複数の情報を比較し、「具体的な様子」と「その効果」を論理的に結びつけて説明する練習を積むがこと効果的である。また、常に文章を書き終えたら推敲するプロセスを強化することも効果的である。

中学校数学

「良好」な内容

○観点別では「知識・技能」の正答率が全国平均を 2.6 ポイント上回っている　特に、グラフから必要な情報を読み取る問題では全国平均を 8.6 ポイント上回っている

○正の数・負の数を用いた状況表現や同類項の理解など、基礎的な問題においても全国平均を上回る正答率となっており、基本事項の理解は理解できている

「課題」となる内容

●評価の観点別「思考・判断・表現」のうち、問題形式別「記述式」の正答率が全国平均は上回るものの県平均を下回った。特に、必要な値を求める方法を数学的に説明する問題は全国平均も下回った。

●記述式問題や思考力を問う問題では、一部で県や全国よりも無解答率が高くなっている項目が見受けられる。

（対策案）単に答えを出すだけでなく、「数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」練習が効果的である。

中学校英語

「良好」な内容

○物語を読んで概要を捉える問題や思い出について感想を書く問題は、全国・県を大きく上回っている。

○あわら市の生徒の IRT バンド分布を見ると全国と比較して中位層の割合が高く、下位層の割合が低い。

「課題」となる内容

●普段の学校生活について説明を書く問題の正答率が低く、無解答率も高い状況である。

●メールから特定の情報（時刻など）を読み取る問題は、全国平均を 12.4%下回っている。

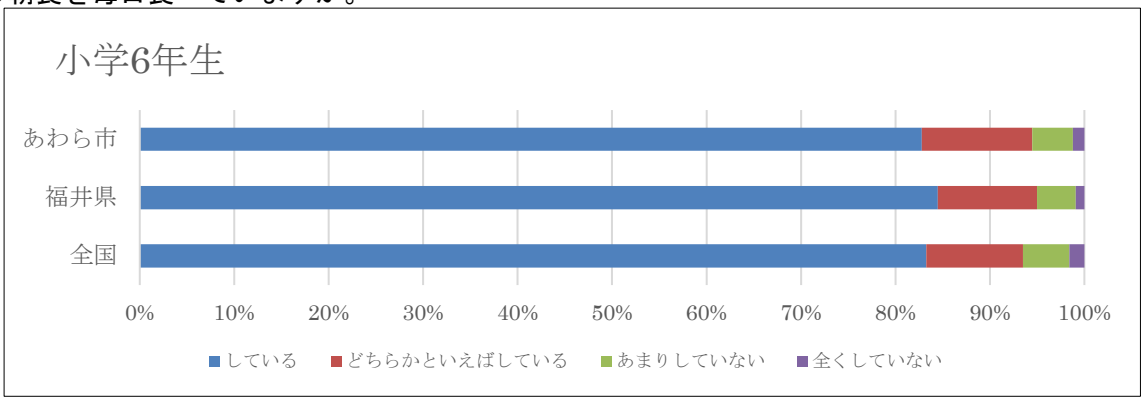
（対策案）学校生活などの身近な出来事について、単に一文で答えるだけでなく、事実と感想を組み合わせながら複数の文を用いて説明する練習が効果的である。

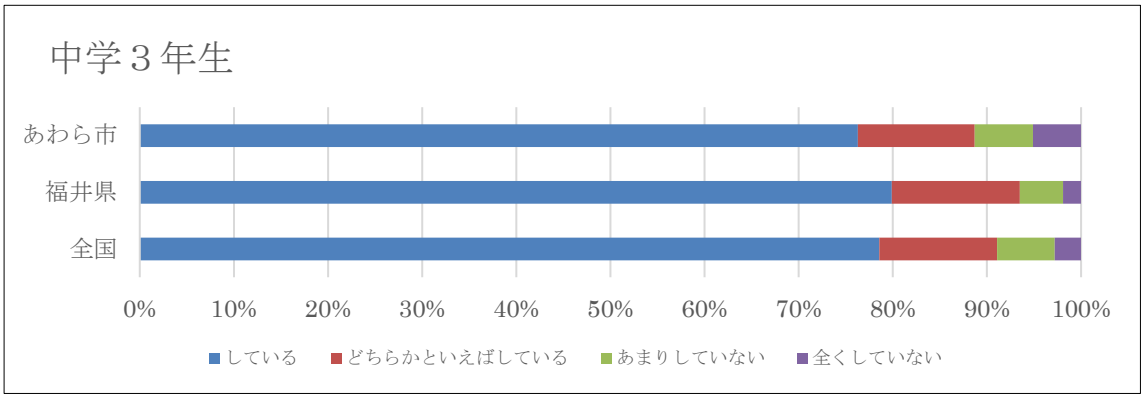
■児童生徒質問紙調査の結果から

生活習慣

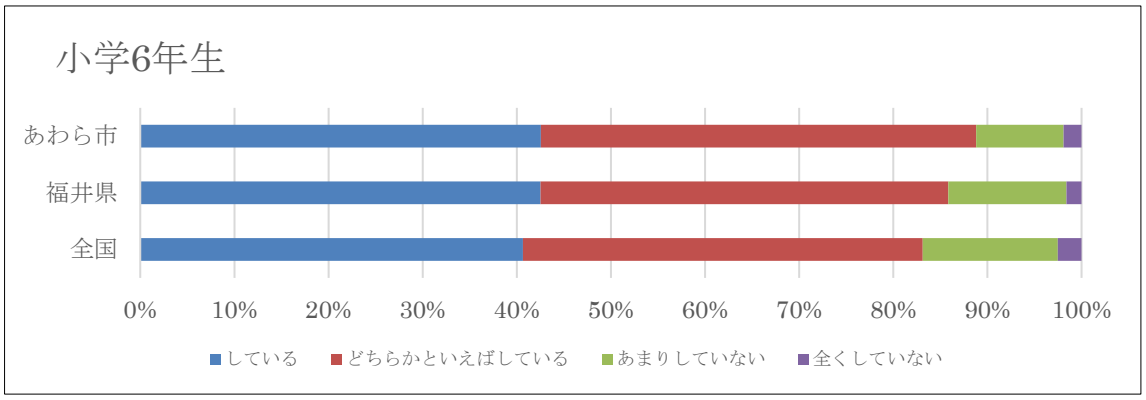
「朝食を毎日食べる」「毎日、同じくらいの時間に寝ている」など規則正しい生活を送っている児童生徒が多いようです。しかし、「全くしていない」生徒の割合が気がかりです。

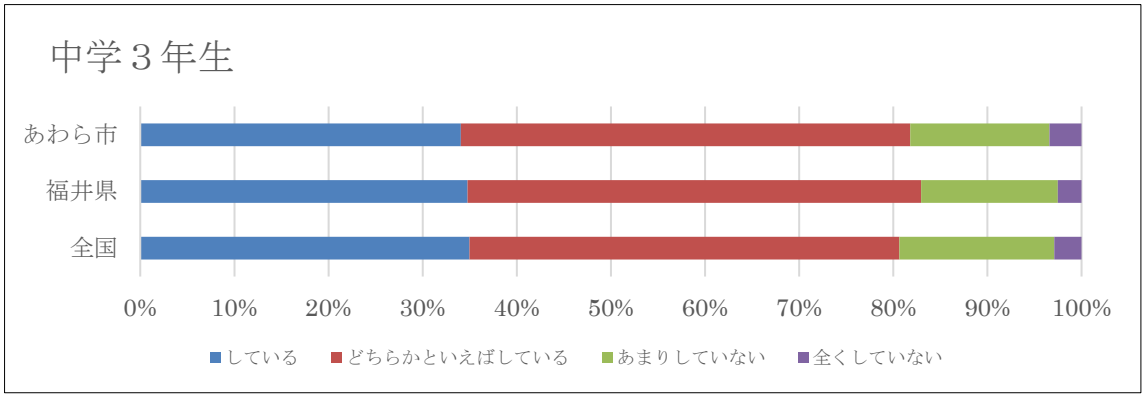
○朝食を毎日食べていますか。





○毎日、同じくらいの時間に寝ていますか。

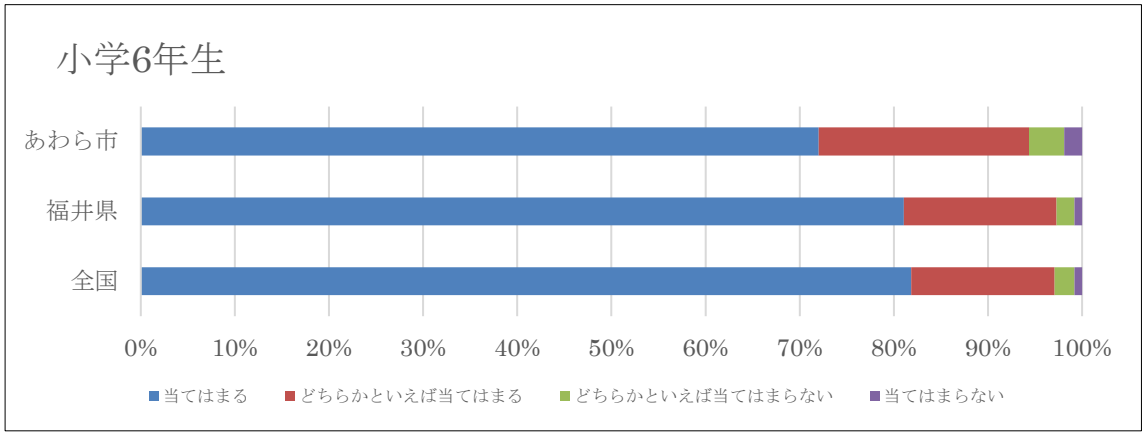


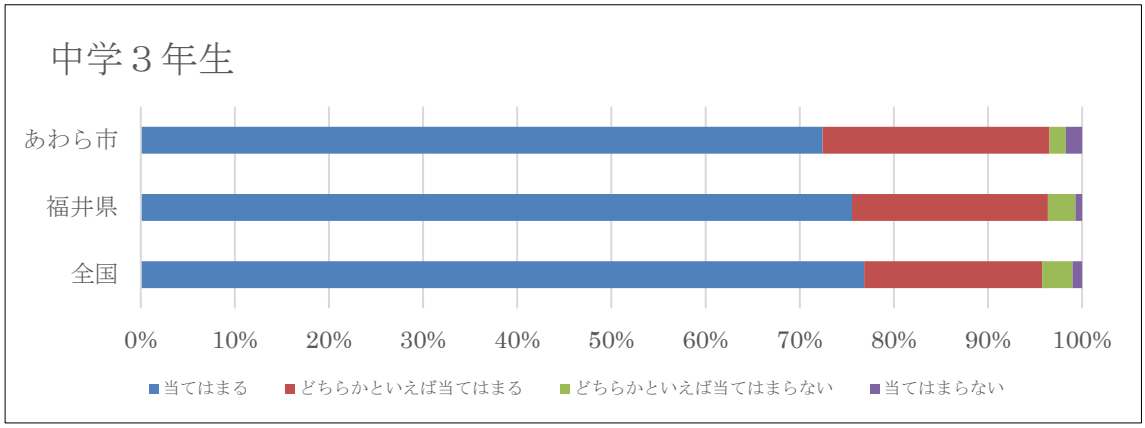


いじめ

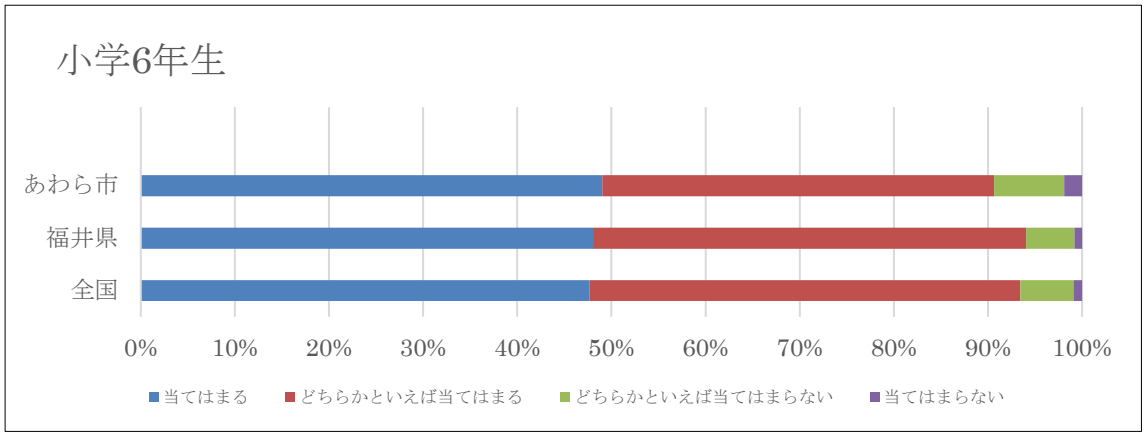
いじめはどんなことがあってもいけないことです。このことについては、引き続き真剣に考えていかなければなりません。また、困っている人に対して、見て見ぬふりをしないで行動に移せるような思いやる気持ちを持つことが大切です。

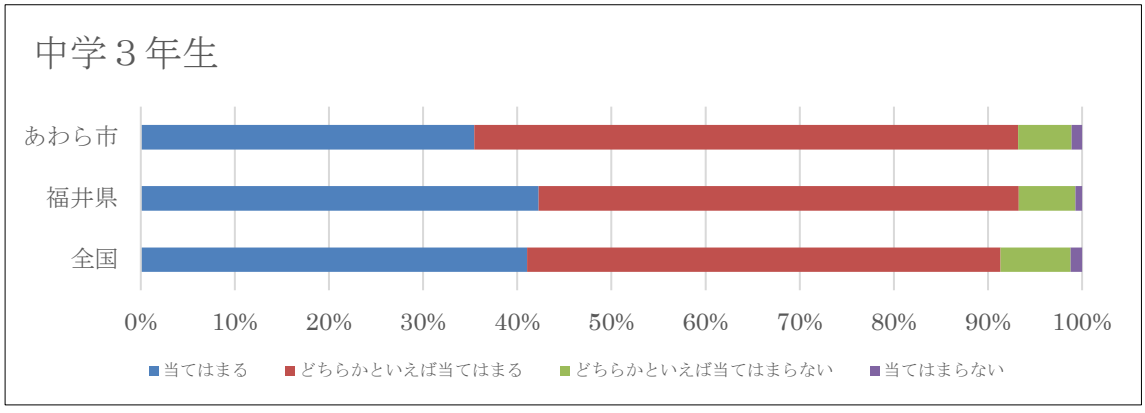
〇いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。





〇人が困っているときは、進んで助けていますか。

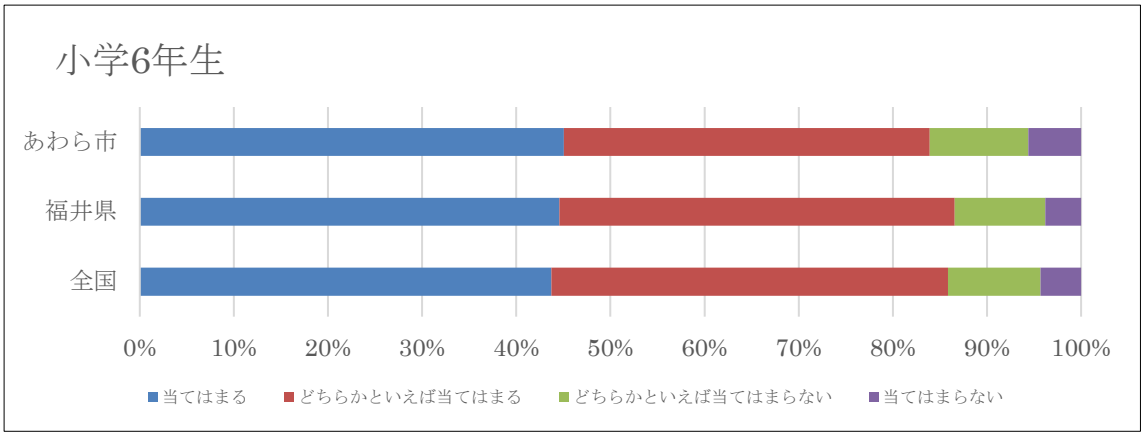


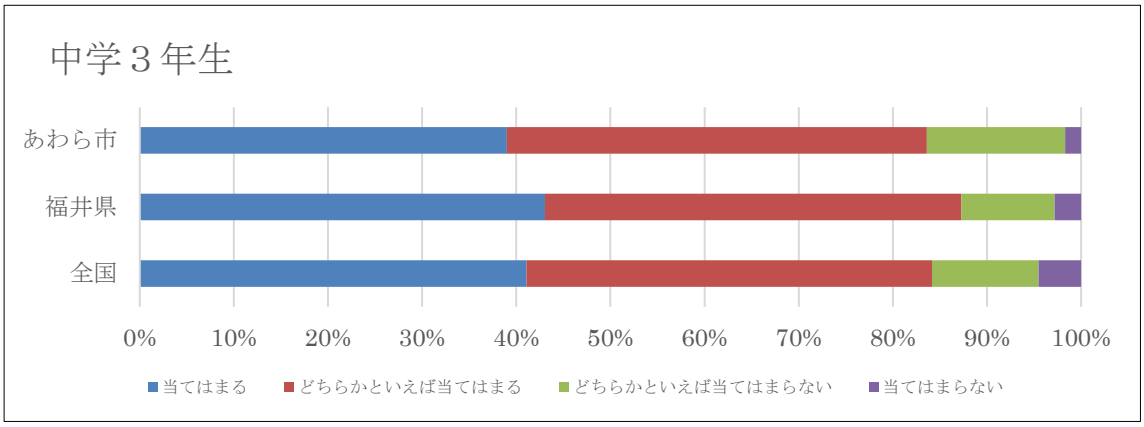


自尊感情等

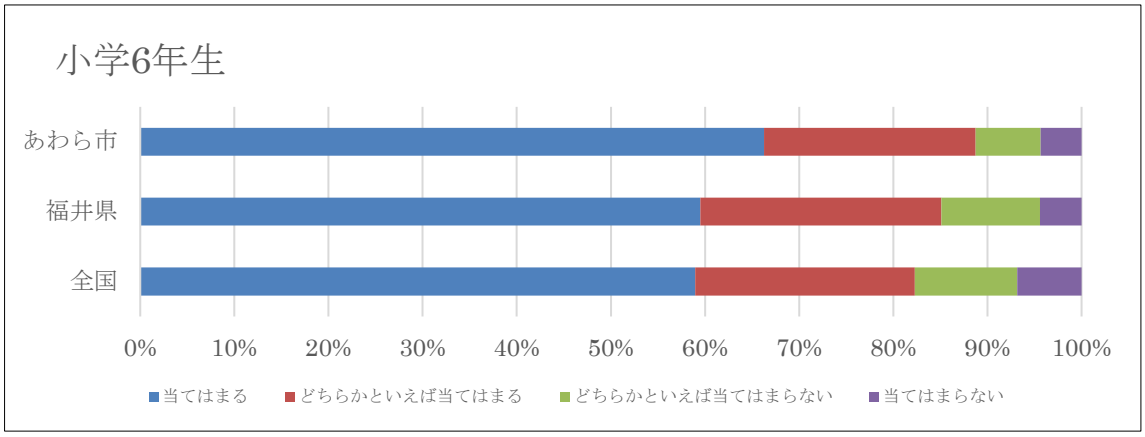
「自分によい所がある」、「将来の夢や目標を持っている」、と答えた小学生の割合が高いです。中学生は、「夢や目標」を人には言いにくい時期かもしれません。しかし、自分の心の中で、その時々で、しっかりと夢や目標をも持っていることが大切です。

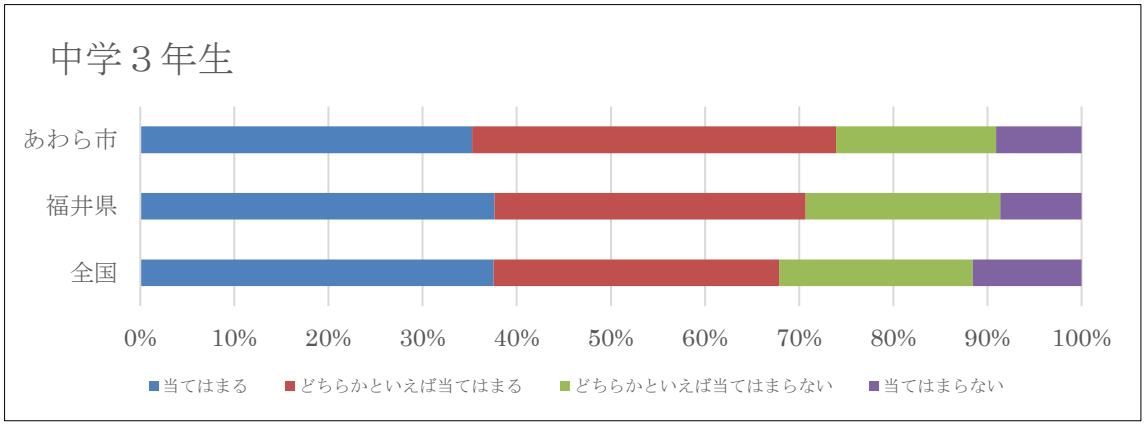
○自分には、よいところがあると思いますか。





○将来の夢や目標を持っていますか。

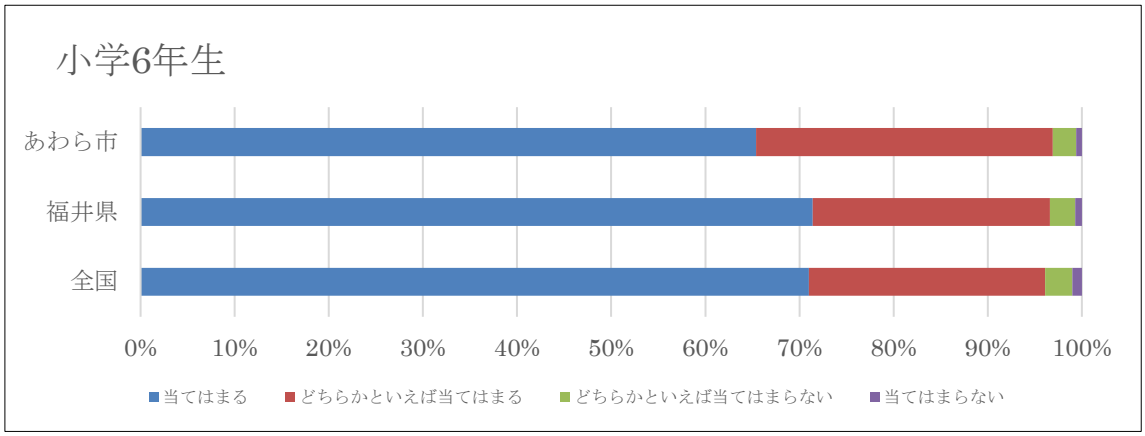


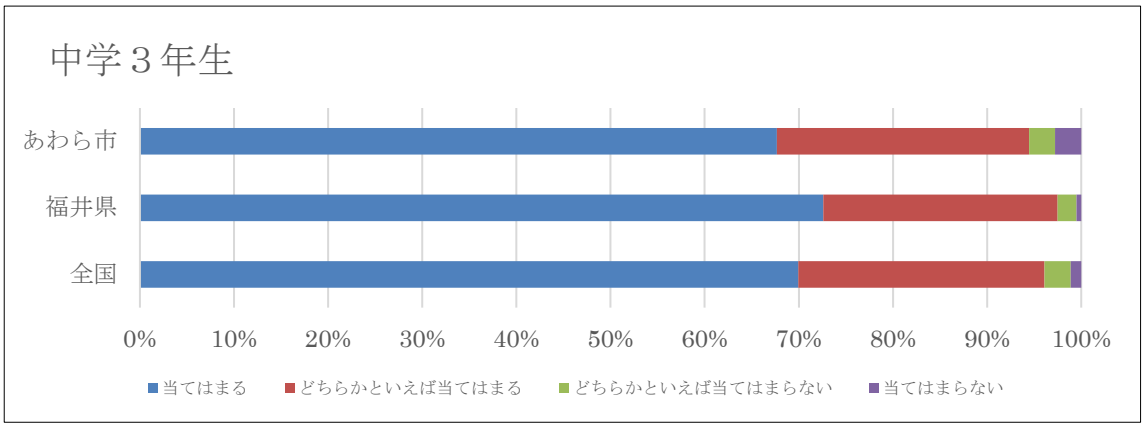


社会性

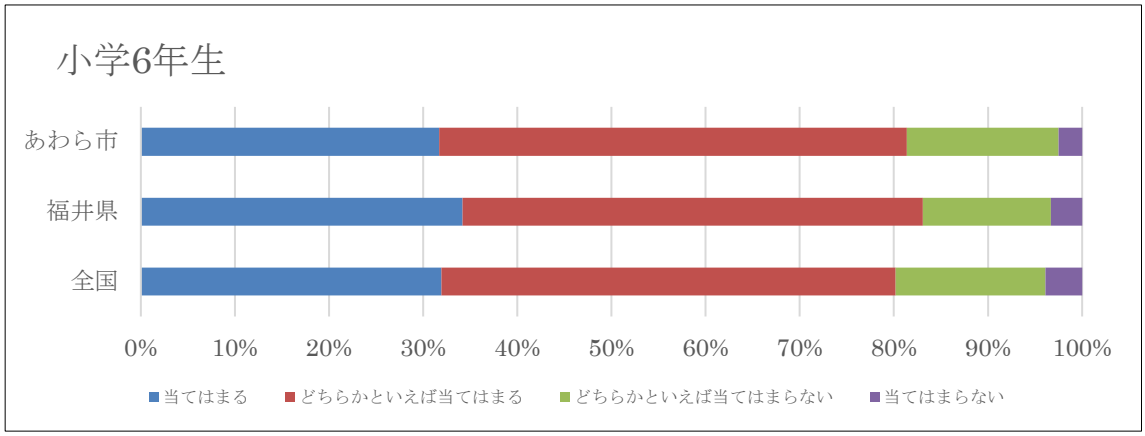
「自分の周りが幸せになる」「誰かのためになる」ことは自分自身の自己有用感を高め、自分の幸福感を高めます。得意・苦手、できる・できないは誰もが持っている特性です。助け合い、補い合いながら幸福感の高いあわら市にしていきましょう。

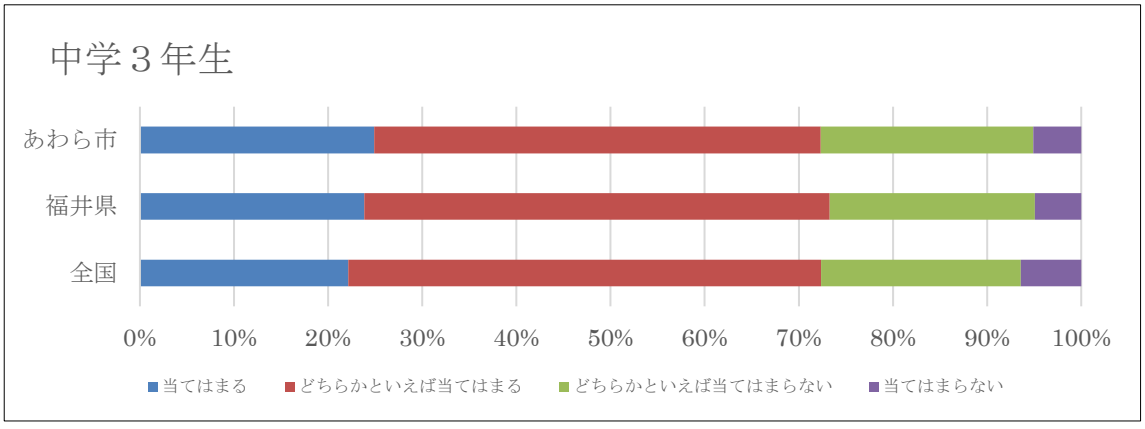
〇人の役に立つ人間になりたいと思いますか。





〇地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

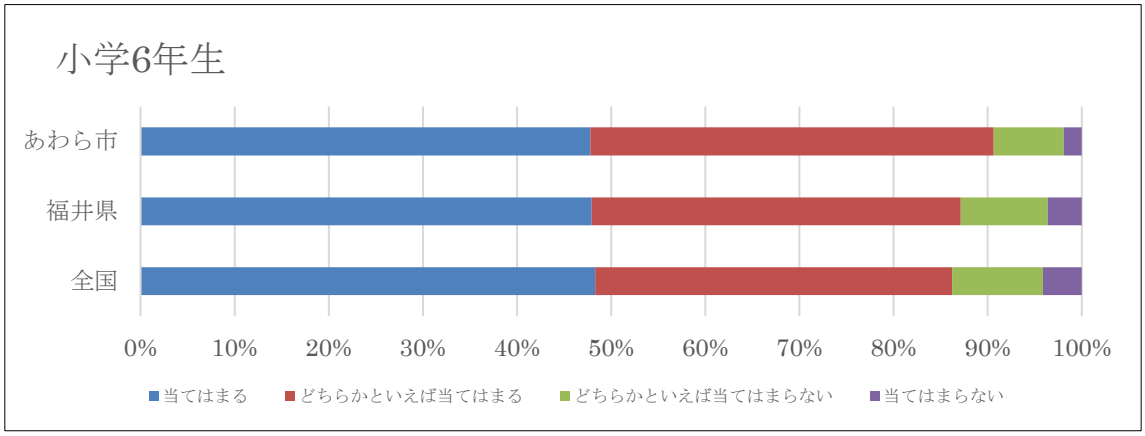


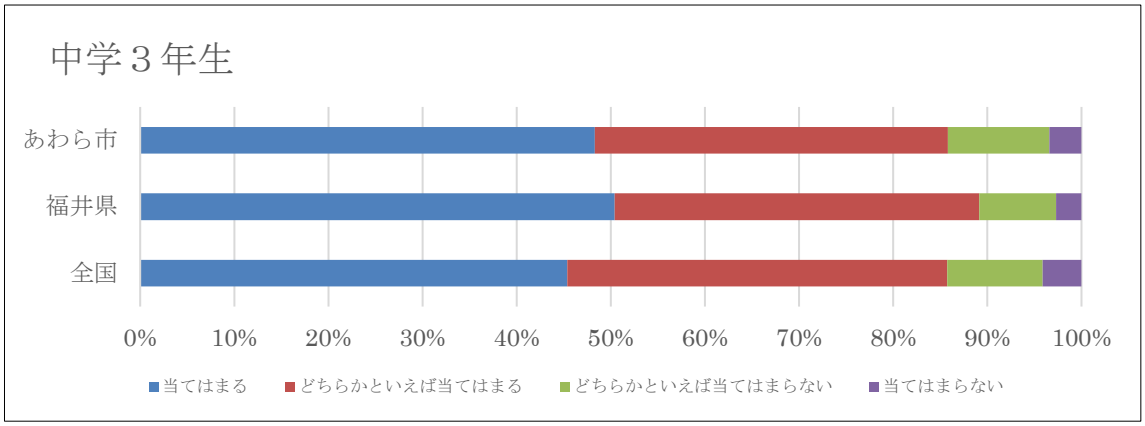


学習①

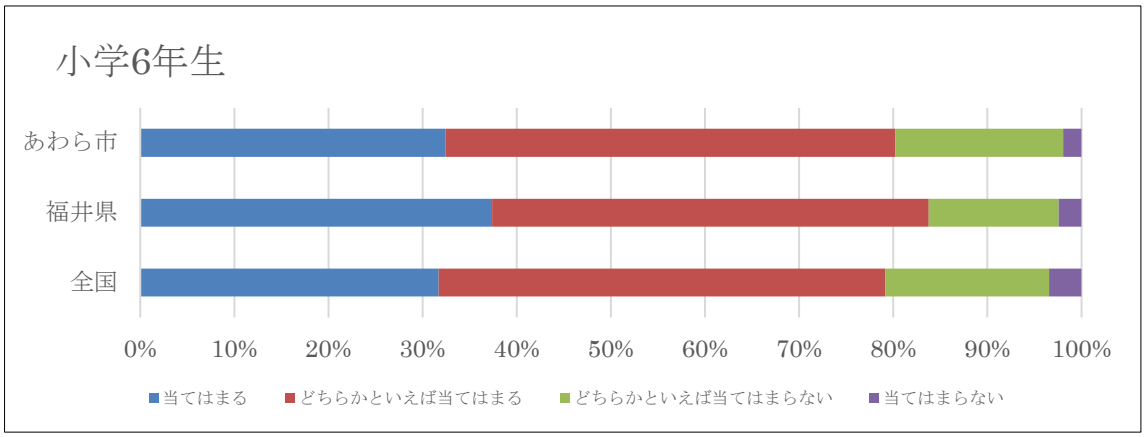
学校が楽しいと感じる児童生徒の割合が高いです。
また、授業で学んでわかったこと、不確かなことを自己分析し、学習に生かすことが主体的な学びにつながります。「わかった」と感じることを楽しみましょう。

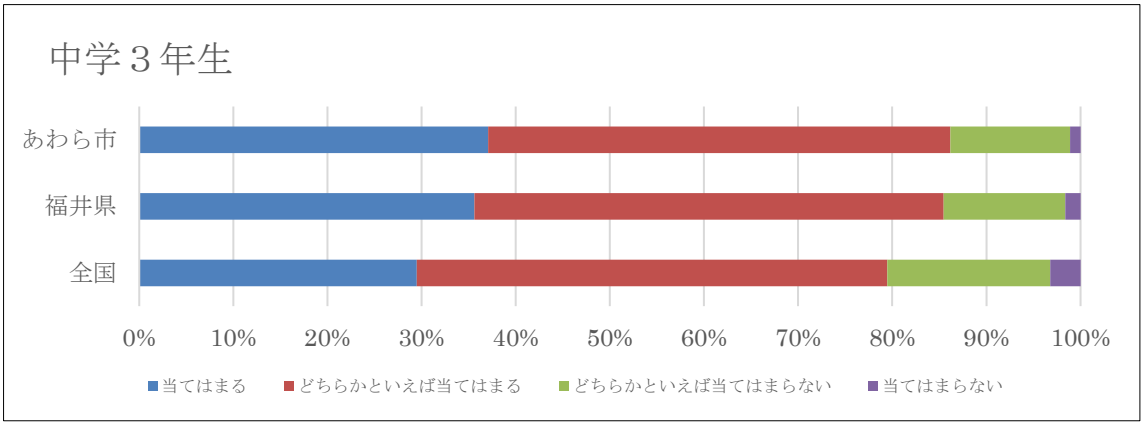
〇学校へ行くのが楽しいと思いますか。





〇学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次につなげることができていますか。

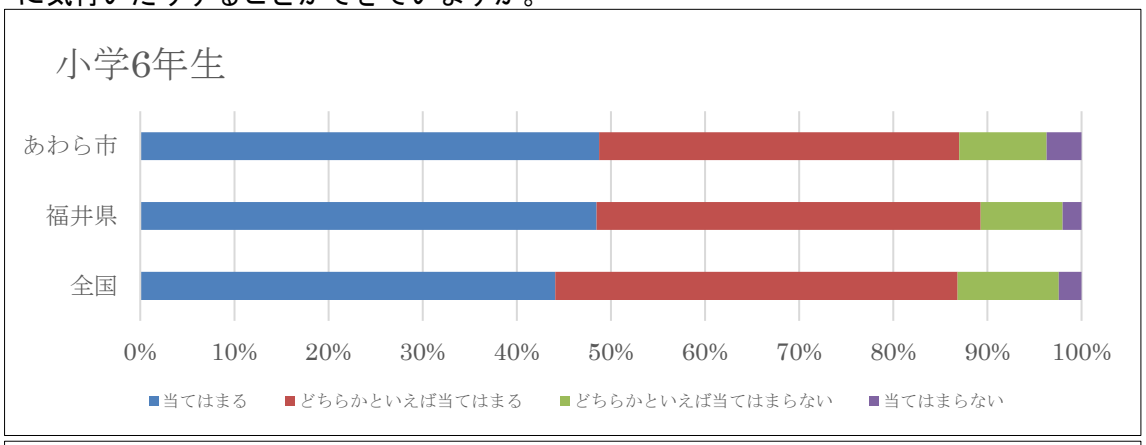


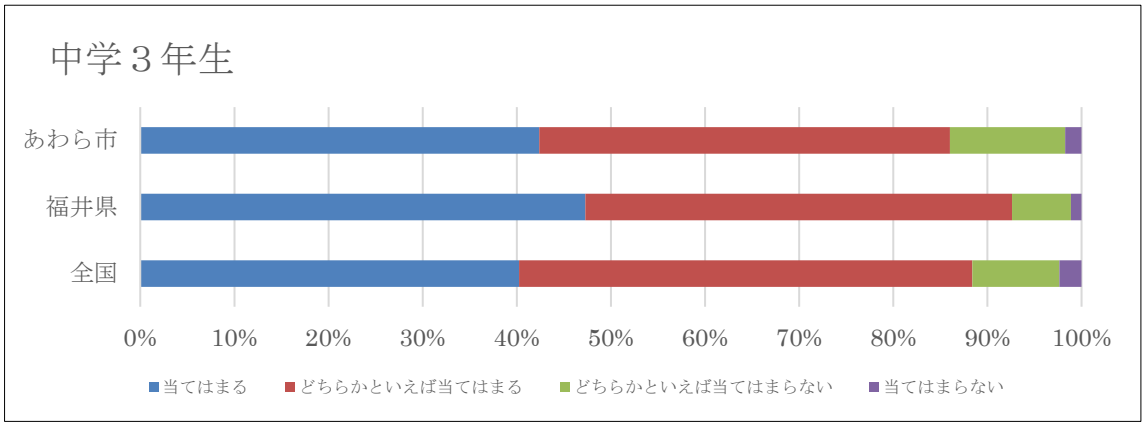


学習②

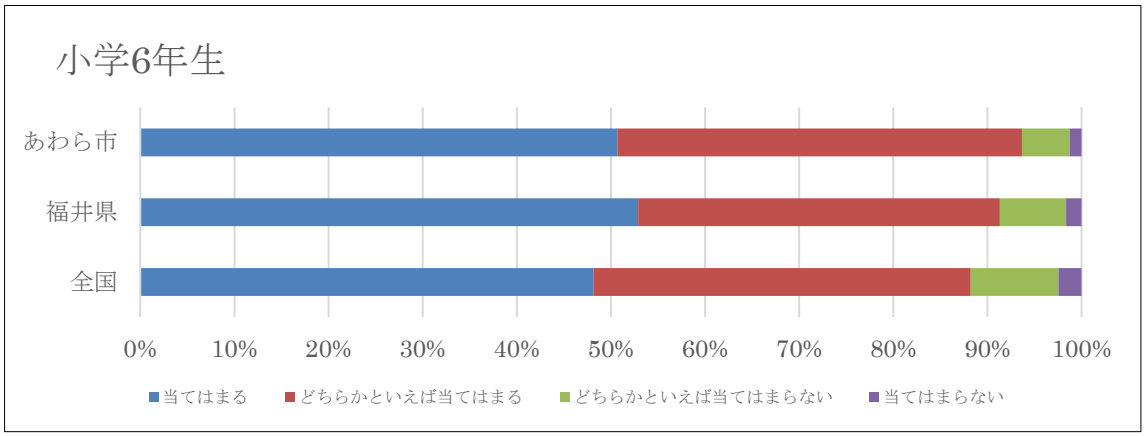
グループで話し合う活動に取り組み、友達や周りの人の考えを大切にし、お互いに協力して課題解決に取り組んでいるようです。友達や周りの人の考えを聞くことは、自分の考えを深めたり、広げたりすることにつながります。

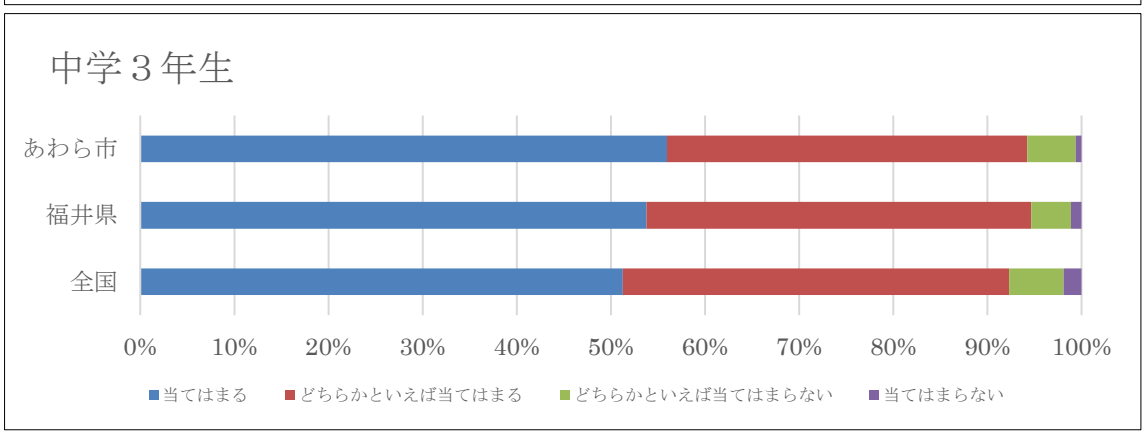
〇学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。





〇道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

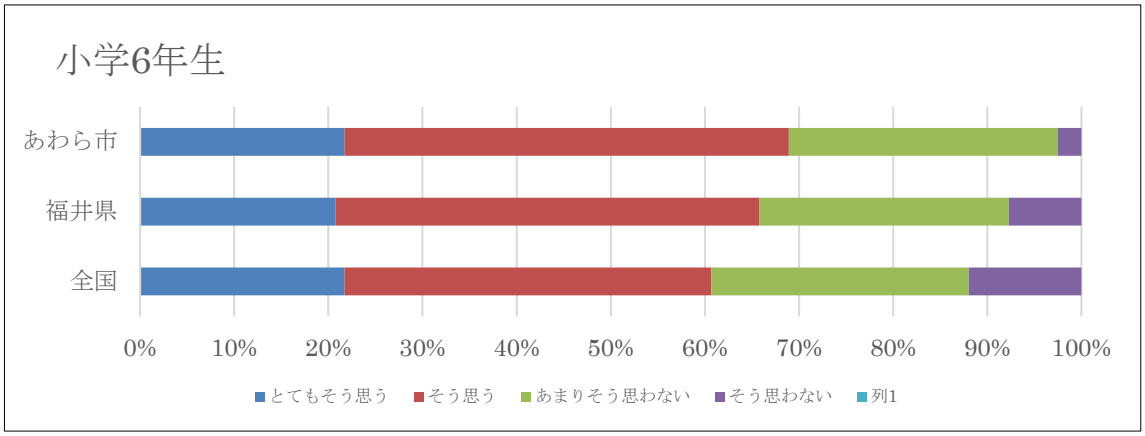


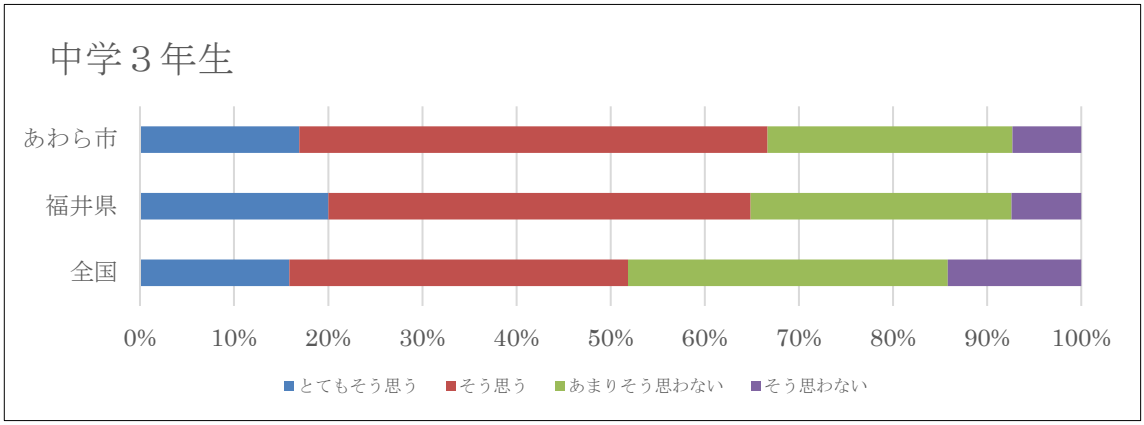


学習③

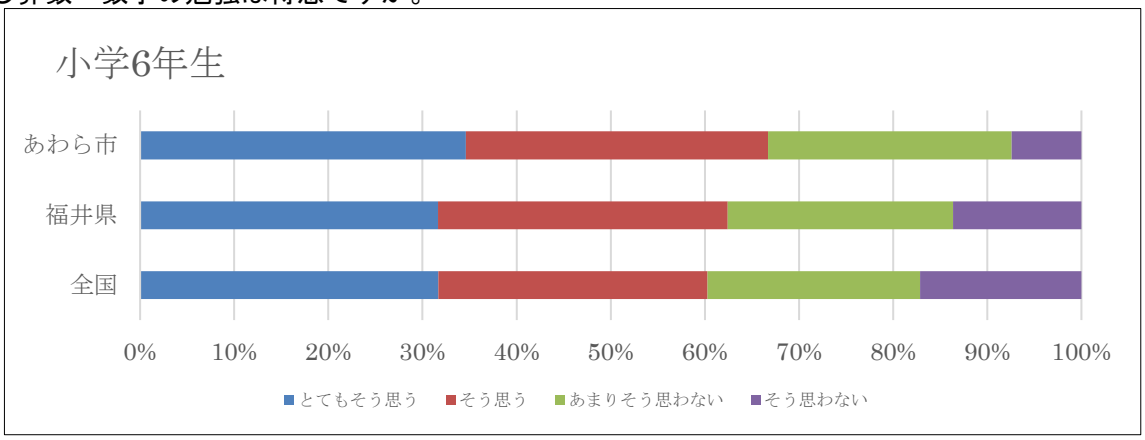
全国的には国語の学習を得意と思っている児童生徒が少ないようですが、あわら市の児童生徒は国語、算数・数学共にバランスよく前向きに教科の学習に取り組んでいる姿が見られます。

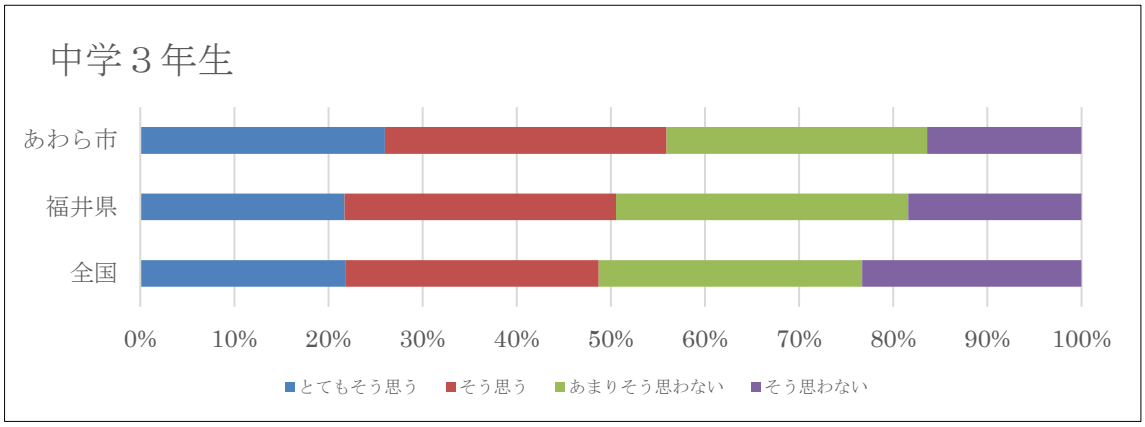
○国語の勉強は得意ですか。





○算数・数学の勉強は得意ですか。

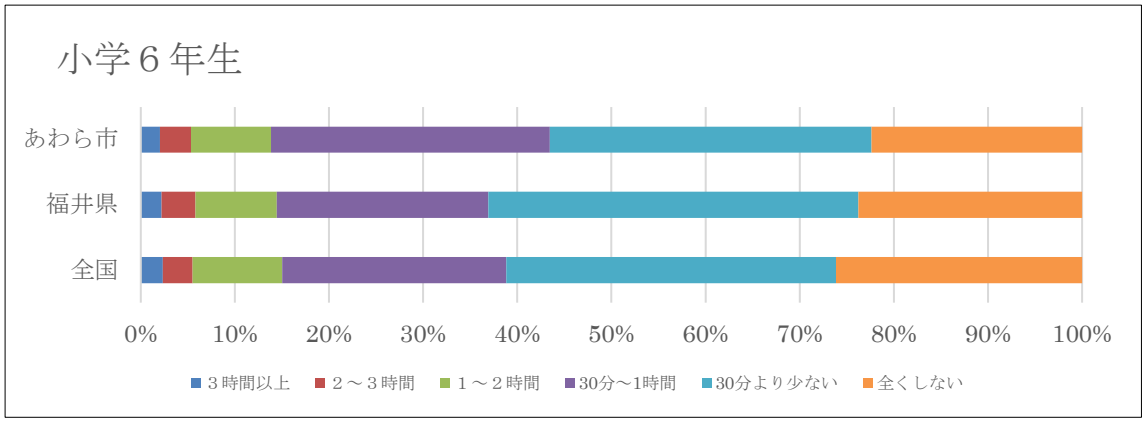


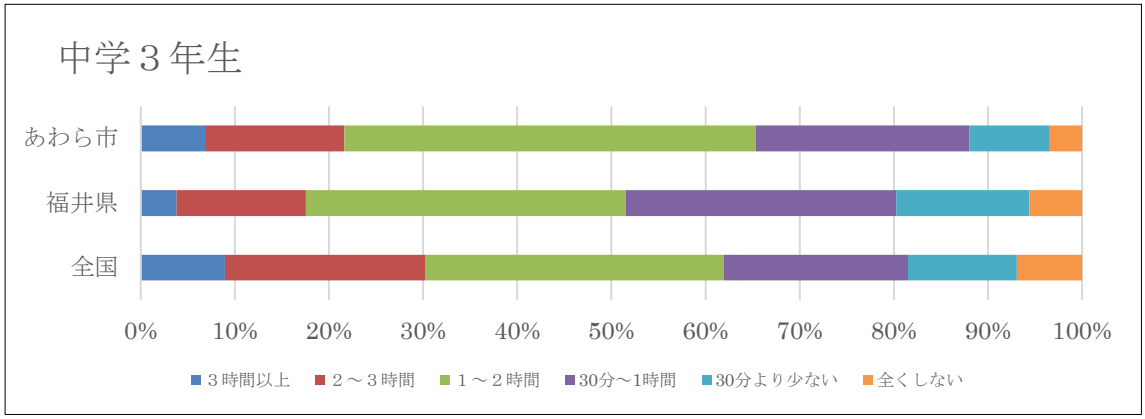


学習④

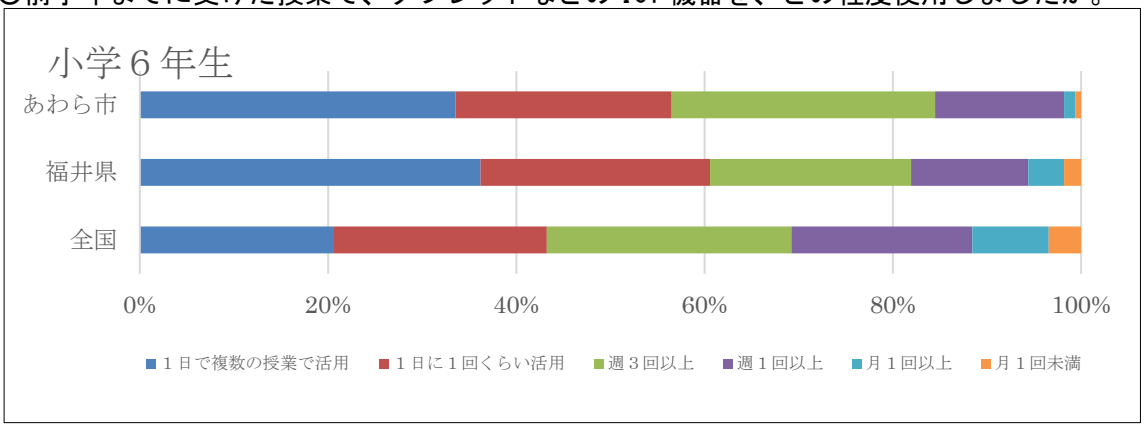
あわら市の児童生徒は、ICT 機器の利用に関心が高く、効果的であると思っています。
学校では今後も授業の中での ICT 機器の効果的な活用を進めます。

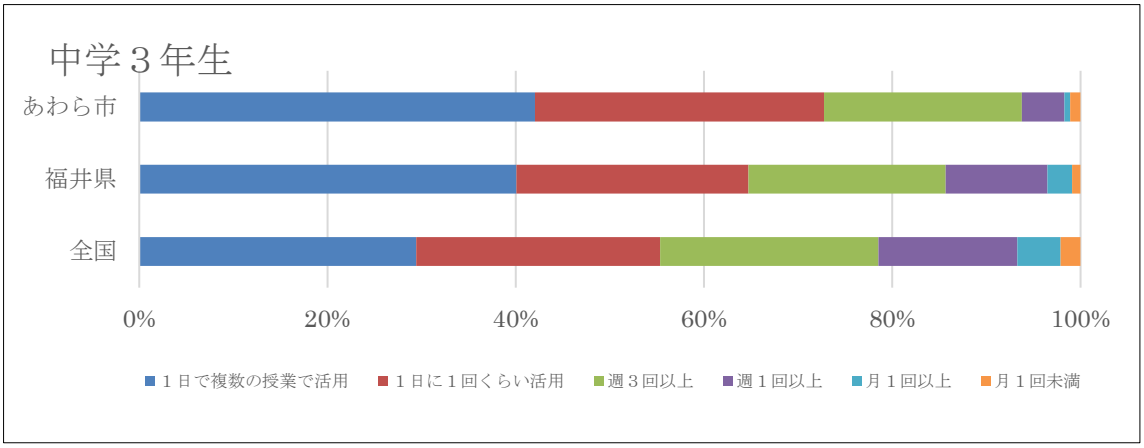
〇学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜）、１日当たりどれくらいの時間、ＩＣＴ機器を勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）





〇前学年までに受けた授業で、タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

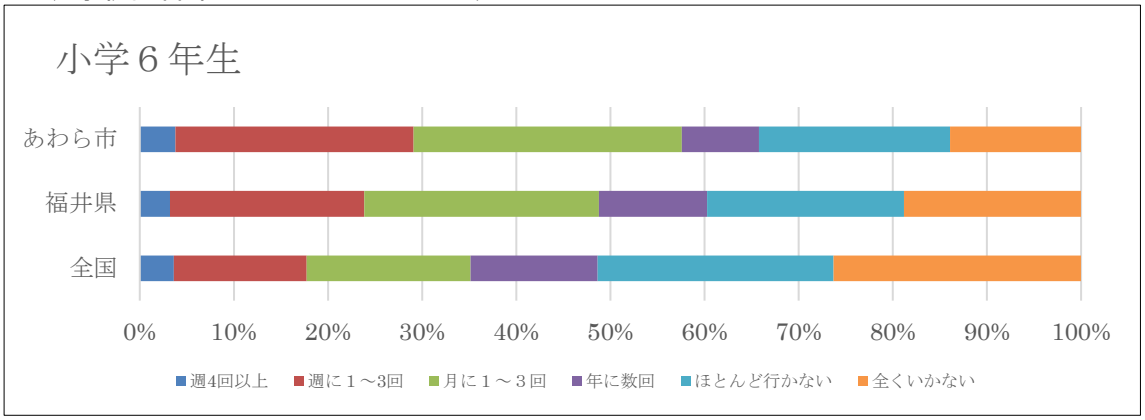


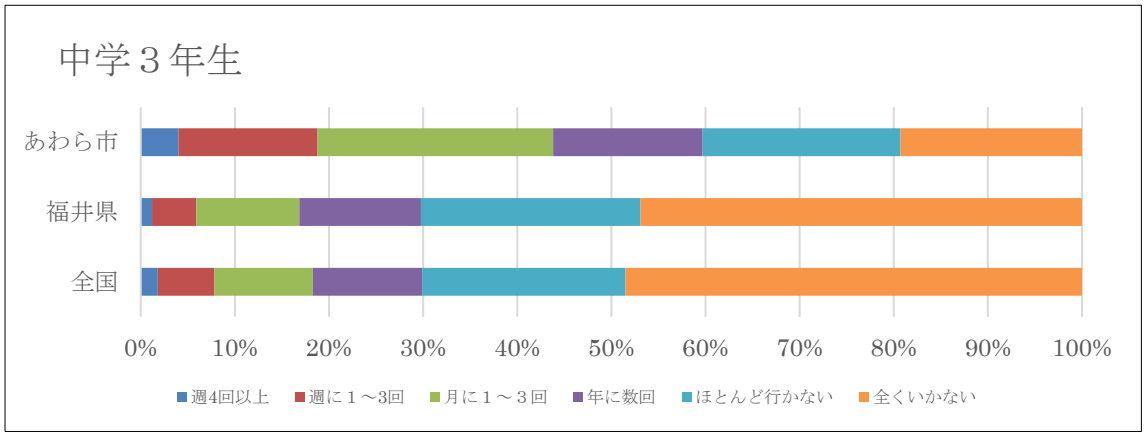


学習⑤

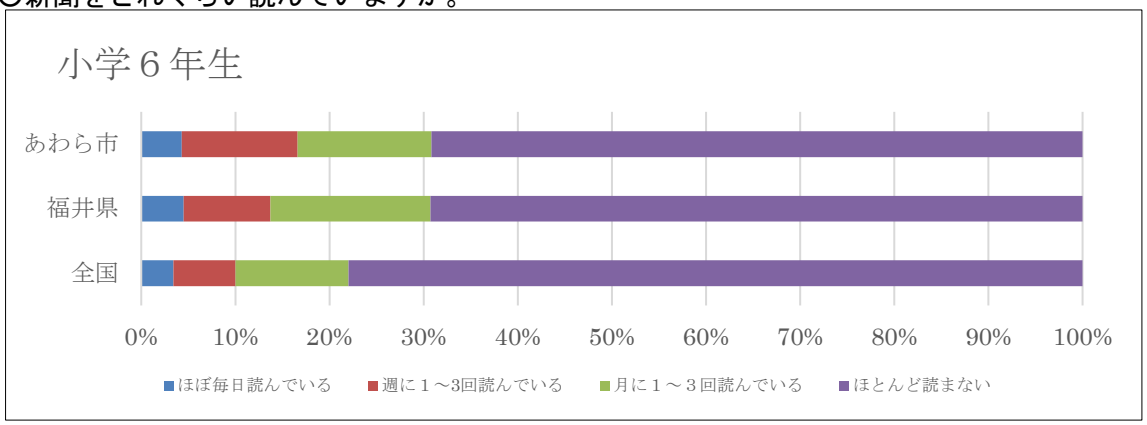
学校図書館の利用割合も高く、新聞を読む回数も全国や県と比較すると多いようです。身近な出来事や信頼性の高い情報を入手できるメディアとして新聞や本を日頃から利用する習慣を身に付けることが大切です。

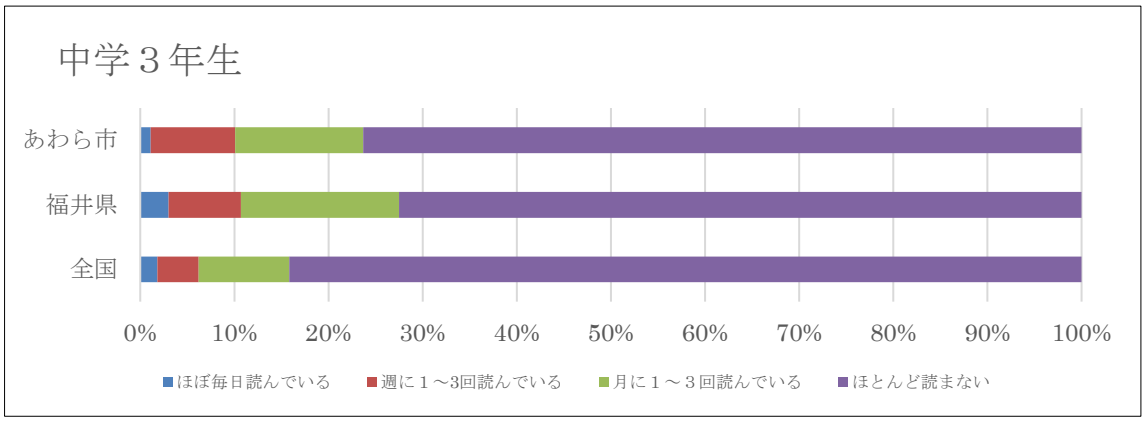
〇昼休みや放課後に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館にどれくらいいきますか





〇新聞をどれくらい読んでいますか。





問い合わせ先　教育総務課　☎７３−８０３９